

令和6年度

山形県議会広報・広聴委員会報告書

令和7年3月11日

山形県議会広報・広聴委員会

目 次

1	協議の経過及び結果について（概要）	1
2	令和6年度議会広報・広聴事業実績	2
3	令和7年度議会広報・広聴事業計画	7
4	山形県議会広報・広聴委員会委員名簿	10

（参考資料）

○	令和6年度議場演奏会の実施状況について	11
○	令和6年度生徒・学生、女性・若者と県議会議員 との意見交換会の実施状況について	16

1 協議の経過及び結果について（概要）

山形県議会広報・広聴委員会は、県議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の声を広く聴き、県民に県議会を身近に感じてもらうための取組みを進めるため、今年度6回の委員会を開催した。

委員会では、広報誌の編集やテレビ広報番組の企画をはじめ、山形県議会女性・若者参画推進会議の提言を踏まえ、県議会議員との意見交換会や議場演奏会の実施方法、県議会映像配信設備の更新等について協議を重ね、「女性・若者と県議会議員との意見交換会」、「高校生による議場演奏会」を初開催するなど、多岐にわたり県議会の活動に関する広報・広聴の充実に努めた。

来年度の広報・広聴事業の方針等については、従来から実施している事業に加え、女性や若者に県議会を身近に感じてもらい政治に関心を持ってもらうため、今年度初開催した事業を継続するとともに、映像配信設備の更新も踏まえ、より効果的な情報発信のあり方や時代に即した手法について引き続き検討していく必要がある。

今後とも、開かれた県議会を目指し、議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の意見を広く聴くための方策について、調査・検討を深めていくことを希望するものである。

2 令和6年度議会広報・広聴事業実績

1 広報誌等

(1) 「県議会だより」の発行

県民に議会活動の概要を伝えるため、年6回発行し、県広報誌「県民のあゆみ」に合冊して全戸配布（約40万部）した。

号	発行日	主な掲載内容
第102号	令和6年5月1日	令和6年2月定例会の概要、3特別委員会における議会政策提言
第103号	令和6年7月1日	常任委員会の活動紹介、トピックス
第104号	令和6年9月1日	令和6年6月定例会の概要、トピックス
第105号	令和6年11月1日	令和6年9月定例会の概要、トピックス
第106号	令和7年1月1日	議長の新年の挨拶、決算特別委員会の概要
第107号	令和7年3月1日	令和6年12月定例会の概要、新議員の紹介

(2) 「県議会やまがた」の発行

県民に議会活動を詳細に伝えるため、定例会ごとに年4回・各3,500部発行し、市町村、県内主要団体、NPO法人、大学・短大等へ配布した。

号	発行月	主な掲載内容
第45号	令和6年5月	令和6年2月定例会の概要、新副議長の紹介
第46号	令和6年8月	令和6年6月定例会の概要
第47号	令和6年11月	令和6年9月定例会の概要
第48号	令和7年2月	令和6年12月定例会の概要、新議員の紹介

(3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

高校生を中心とした若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する興味を持ってもらうため、36,000部を発行、県内の高校・大学等へ配付。なお、山形大学のフリーペーパーを作成するサークル「Y-a i ! (ヤイ)」に取材や編集の協力を依頼し、若者の感性を生かした紙面構成とした。

号	発行月	主な掲載内容
第9号	令和6年11月	山形大学学生と正副議長との座談会、学生による傍聴体験レポート

(4) 「県議会のしおり」の配布

議会の役割、活動内容の周知を図るため、「県議会のしおり」を議事堂見学者等に配布した。

また、視覚障がいのある方向けに作成した点字版「県議会のしおり」についても、議事堂見学者への配布や県議会ロビーに備え付けるなどして活用した。

2 議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会と議会見学会」を開催した。

■ 開催概要

- ・開催日 令和6年10月1日(火)
- ・応募総数 102名
- ・参加者 92名
- ・実施内容 予算特別委員会の傍聴、議場見学、県議会の概要説明、議場における山形交響楽団による弦楽合奏の鑑賞

3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらう機会を設けるとともに、県民、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生の文化活動の展示スペース「県議会ギャラリー」を提供した。

展示期間	展示内容
令和6年6月18日 ～7月5日	県立東桜学館中学校・高等学校の探究活動「未来創造プロジェクト」の研究内容のポスター
令和6年9月18日 ～10月8日	県立酒田光陵高等学校「情報科生徒研究発表会2023」の研究発表のポスター及び映像
令和6年12月3日 ～12月20日	「山形県防犯広報作品コンクール」防犯ポスターの優秀作品
令和7年2月19日 ～2月28日	「山形県統計グラフコンクール」の優秀作品
令和7年3月3日 ～3月19日	「山形県高等学校新聞コンクール」の優秀作品

4 インターネット

(1) 県議会ホームページの運営

定例会・各常任委員会・3特別委員会・議会運営委員会の概要、地域議員協議会の内容や県議会のトピックスなど、議会の動きをわかりやすくタイムリーに掲載した。

(2) 県議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信した。令和2年2月定例会にスマートフォン等向けの配信を開始して以降、アクセス件数は増加傾向にあり、今年度（令和7年1月31日時点）は15,854件（生中継：5,299件、録画中継：10,545件）となっている。

(3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

会議録検索システムに「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録を掲載し、ホームページ上で、会議録の検索、閲覧、印刷、ダウンロードに対応した。

5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

(1) YBC「やまがたサンデー5」（15分番組）の活用

放映日	タイトル	主な内容
令和6年10月13日	身近な県議会をめざして ～みんなで奏でるハーモニー～	議場演奏会及び議会見学会、アナウンサーによる予算特別委員会の傍聴、副議長インタビュー
令和6年12月15日	若者に身近な県議会をめざして	県立米沢栄養大学・米沢女子短期大学学生と県議会議員との意見交換会、「県議会ナビ」の紹介及び「Y—ai！」のインタビュー、広報・広聴委員長インタビュー

(2) 県政広報番組を活用した定例会の告知

県政広報番組の告知枠を活用し、各定例会の日程と傍聴案内の告知を行った。

6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局のロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施した。

7 報道機関（パブリシティ）の活用

議場演奏会と議会見学会や生徒・学生との意見交換会等について、県庁記者クラブへ情報を発信した。

8 広聴事業

(1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的として「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」を開催した。

意向調査において希望があった学校の中から、学校所在地域や過去の開催状況等を考慮して、5校で開催した。出席した議員は、正副議長、広報・広聴委員を中心に延べ24名で、参加した生徒・学生数は105名であった。

意見交換会は、参加した生徒・学生の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、各校の希望の開催方式により実施し、各校が設定したテーマを基に、幅広い内容で活発な意見が交わされた。

■開催概要

開催日	学校名（所在地）	出席議員数	参加者数
令和6年9月3日	県立新庄南高等学校（新庄市）	5名	24名
令和6年9月9日	県立庄内農業高等学校（鶴岡市）	5名	22名
令和6年11月18日	日本大学山形高等学校（山形市）	4名	11名
令和6年11月29日	県立米沢栄養大学・米沢女子短期大学（米沢市）	5名	25名
令和7年1月30日	大原学園山形校（山形市）	5名	23名

（2）山形大学学生との意見交換

インターンシップで受け入れた学生と若者の政治参加等について意見交換を行った。

9 「山形県議会女性・若者参画推進会議」の提言を踏まえた取組み

（1）女性・若者と県議会議員との意見交換会（初開催）

女性や若者を中心に、県民の県議会への関心を喚起するとともに、参画（傍聴、投票、立候補）を促していくことを目的として、県内青年会議所の方々と意見交換会を行った。

■開催概要

- ・開催日 令和6年11月27日（水）
- ・参加者 県内の青年会議所の役員11名、県議会議員8名
- ・内容 「若者とこれからの山形県」をテーマに2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行うとともに議場見学を行った。

（2）高校生による議場演奏会（初開催）

高校生が県議会を訪れ、議会への理解を深める機会を創出することを目的として、県立上山明新館高等学校吹奏楽部による演奏会を開催した。

■開催概要

- ・開催日 令和6年12月11日（水）
- ・参加者 吹奏楽部の部員11名
- ・内容 議場でダンス&プレイなどのパフォーマンスを披露した。また予算特別委員会の傍聴と議場見学を行った。

3 令和7年度議会広報・広聴事業計画

1 広報誌等

(1) 「県議会だより」の発行（県広報誌「県民のあゆみ」との合冊）

項 目	「県議会だより」	「県民のあゆみ」
発行回数	年6回 5月号〔2月定例会分〕 7月号〔企画記事〕 9月号〔6月定例会分〕 11月号〔9月定例会分〕 1月号〔決算特別委員会分〕 3月号〔12月定例会分〕	年6回 隔月奇数月
ページ数	A4版・各号見開き2ページ（1月号は1ページ）	各号16ページ
配布先	全戸配布（約40万部）	同左
備 考	幅広い年代が見ることから、より分かりやすい紙面となるよう工夫していく。	

(2) 「県議会やまがた」の発行

発行回数	年4回（4定例会毎）
ページ数	各号タブロイド版 4ページ
配布先	県内市町村、主要団体、NPO、大学・短大等（3,500部）

(3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

発行回数	年1回
ページ数	A4版見開き4ページ
配布先	県内高等学校、大学・短大等（36,000部）

(4) パンフレットの配布等

議会についての理解や関心を高めるため、「県議会のしおり」等を議事堂見学者等に配布するほか、様々な媒体を活用し情報発信を行っていく。

2 議場演奏会等

(1) 山形交響楽団による議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「山形交響楽団による議場演奏会と議会見学会」を開催する。

(2) 学生による議場発表会

学生が県議会を訪れ、議会への理解を深める機会を創出することを目的として、「学生による議場発表会」を開催する。

3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらうきっかけとなることを目指すとともに、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会への理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生が学校の授業や部活動等で制作した作品の展示スペース「県議会ギャラリー」を引き続き提供する。

4 インターネット

(1) 県議会ホームページの運営

定例会・臨時会の概要や各委員会の活動状況等、様々な議会情報を引き続き一元的に掲載していく。また、県議会トピックスとして、上記以外の多様な活動も積極的に発信する。

(2) 県議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信する。

県議会映像配信設備の更新に向けて、より効果的な情報発信のあり方や、データ量増加などへの対応について検討を進める。

(3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

平成4年分以降の「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録全文について、検索システムにデータを掲載し、ホームページから閲覧できるようにする。

5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

県政広報番組枠を活用し、議会広報番組の放映を実施する。

(1) テレビ

県政広報テレビ15分番組による議会活動の紹介、各定例会の日程等の告知

(2) ラジオ

各定例会・地域議員協議会の日程等の告知

6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施する。

7 報道機関（パブリシティ）、各種広報媒体の活用

報道各社に対し、議会活動の積極的な情報提供を行うほか、県広報広聴推進課所管の広報媒体の活用や市町村等の広報媒体を活用した広報に努める。

8 広聴事業

（1）生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図るため引き続き開催する。なお、意見交換会の開催にあたっては、学校所在地域や過去の開催状況等を考慮して実施校の選定を行い、参加する生徒・学生の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、実施校の希望を踏まえて実施する。

（2）女性・若者と県議会議員との意見交換会

女性や若者を中心に県民の県議会への関心を喚起し、参画（傍聴、投票、立候補）を促していくため引き続き開催する。

（3）山形大学学生との意見交換会

若者の政治参加などをテーマに、相互協力協定を締結している山形大学の学生との意見交換会を引き続き開催する。

山形県議会広報・広聴委員会委員名簿

委員長 遠藤 寛明

副委員長 阿部 ひとみ

委員 石川 渉

委員 齋藤 俊一郎

委員 橋本 彩子

委員 阿部 恭平

委員 伊藤 香織

委員 佐藤 文一

委員 相田 日出夫

委員 佐藤 正胤

参 考 资 料

議場演奏会と議会見学会 参加者アンケートとりまとめ結果について

- ◆ 日 時 令和6年10月1日（火）10時30分～12時45分
- ◆ 会 場 山形県議会棟（本会議場、予算特別委員会室、第1委員会室）
- ◆ 応募総数 102名
- ◆ 参加者 86名（アンケート記入79名）

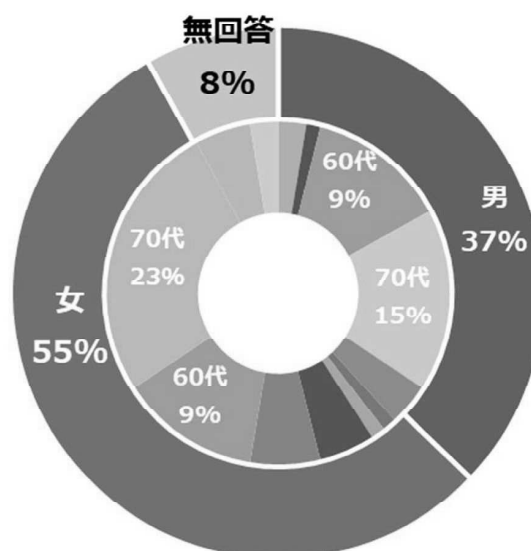
1 住まい

16市町から参加

市町村名	参加者	
	(人)	(%)
村山地域	62	78.5%
最上地域	2	2.5%
置賜地域	9	11.4%
庄内地域	6	7.6%
合 計	79	

2 性別・年齢

- 10代～80代の方が参加
- 男女比は2：3（昨年は1：2）
- 年齢構成は男女とも60代・70代が多く、合計で全体の約6割を占める
- 40代以下の参加は約1割



	10代	20代	30代	40代	50代
男			2	2	1
女	1	1		4	5
合 計	1	1	2	6	6

	60代	70代	80代	無回答	合 計
男	10	13	3	1	32
女	10	20	4	2	47
合 計	20	33	7	3	79

3 何で知ったか（複数回答）

新聞記事、HP の掲載などで一定の効果が認められた

〈チラシを見た場所〉 公民館

〈その他〉 市報、SNS

	(人)
新聞	22
ラジオ	3
HP	18
チラシ	7
知人・会社・団体等の紹介	18
その他	3
無回答	15

4 参加した理由（複数回答）

約6割が県議会に興味があって参加

	(人)	(%)
県議会と山響両方に興味がある	34	43.0%
県議会に興味がある	13	16.5%
山響の演奏を聴きたい	26	32.9%
その他	3	3.8%
無回答	3	3.8%
合計	79	100.0%

5 参加しての感想

(1) 議会の概要説明

8割近く以上が時間を丁度よいと回答。満足との回答が7割近く。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	4	5.1%	大変満足	10	12.7%
丁度よい	62	78.5%	満足	42	53.2%
短い	13	16.5%	普通	20	25.3%
合計	79	100.0%	やや不満	6	7.6%
			不満	1	1.3%
			合計	79	100.0%

(2) 予算特別委員会の傍聴

約7割が時間を丁度よいと回答。満足との回答は6割以上。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	4	5.97%	大変満足	6	9.0%
丁度よい	47	70.15%	満足	36	53.7%
短い	16	23.88%	普通	21	31.3%
合計	67	100.0%	やや不満	2	3.0%
			不満	2	3.0%
			合計	67	100.0%

(3) 議場の見学

9割近くが時間を丁度よいと回答。8割が満足との回答。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	3	3.8%	大変満足	18	22.8%
丁度よい	69	87.3%	満足	46	58.2%
短い	4	5.1%	普通	12	15.2%
無回答	3	3.8%	やや不満	1	1.3%
合計	79	100.0%	不満	0	0.0%
			無回答	2	2.5%
			合計	79	100.0%

(4) 議場演奏会

7割近くが時間を丁度よいと回答する一方、2割近くが短いと回答。9割近くが満足との回答。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	0	0.0%	大変満足	43	54.4%
丁度よい	54	68.4%	満足	25	31.6%
短い	15	19.0%	普通	0	0.0%
無回答	10	12.7%	やや不満	0	0.0%
合計	79	100.0%	不満	0	0.0%
			無回答	11	13.9%
			合計	79	100.0%

6 また参加したいか

8割近くが再度の参加を希望

	(人)	(%)
参加したい	63	79.7%
演奏会のみ参加したい	15	19.0%
参加したくない	0	0.0%
無回答	1	1.3%
合計	79	100.0%

7 議場演奏会と議会見学会の感想や県議会に望むこと（自由記述・主なもの）

（1）感想

① 県議会が身近に感じられ勉強になった。

- ・ 県議会を生で見たことがなかったが、今回参加し身近なものとなった。
- ・ 県政がより身近に感じられ、こらからのテレビ放送などに興味関心が強くなった。
- ・ 議会になかなか関心が向かなかったが、参加して一歩前進したような気になった。参加して良かった。
- ・ 知事と県議会議員とのやり取りを生で聞けて良かった。
- ・ 参加して初めて議会のしくみがわかった。

② 今後も実施してほしい、また参加したい

- ・ 議員の椅子に実際に座るなど、素晴らしい体験ができた。また参加したい。
- ・ 今後もこの取組みを続けて欲しい。
- ・ 今度は、小学生の子どもと一緒に参加したい。

③ その他

<予算特別委員会の傍聴と議会見学会>

- ・ 予算特別委員会で議論していた内容も身近で興味深いものだった。
- ・ 予算特別委員会を傍聴して、県民の声をつぶさに吸い上げている議員と県職員の日々の活躍があることを感じた。
- ・ 質問する議員の名前や質問の内容がわかれば、もっと楽しめたと思う。
- ・ 予算特別委員会の傍聴時間はもっと長くして欲しい（3件）
- ・ 発言中にやじが多い。いかがなものか。
- ・ 偉そうにこちらをジロジロ見る議員がいて、嫌な感じだった。
- ・ 予算特別委員会中にスマホをいじっている議員がいた。（3件）
- ・ 議場で座ったり、触ったりできたのが楽しかった。
- ・ 託児室があることを知らなかった。
- ・ 今回、見学した場所以外も見学させて欲しい。
- ・ 概要説明の時に質問時間があれば良かった。
- ・ 説明が理解しやすいし、とても丁寧だった。

<議場演奏会>

- ・ 演奏会を議員席で聞いたかった（3件）
- ・ 本会議場は本当に音がいい。もっとコンサートで活用して欲しい。
- ・ 弦楽八重奏は大舞台でのオーケストラと雰囲気は異なり、客席と一体となり、よかった。
- ・ 演奏会は心が和んだ。
- ・ 山響のコンサートを子どもたちが聴く機会を、今後も続けられると良い。
- ・ 西濱専務理事のファン。いつも司会が素晴らしい。

(2) 県議会に望むこと

- ・議員も大いに議論して山形県を豊かで元気な県にして欲しい。
- ・後継者不足で休耕地が増え続けている。県と県議会が真剣に取り組んで欲しい。

(3) その他

- ・今回の取組みを知らない人も多いと思う。もっとPRしてより多くの人に参加できるようにして欲しい。
- ・開催日が平日なので、高齢者しか参加していなくて残念。もっと広く県民に周知して欲しい。
- ・資料に議事堂内各フロアの平面図（トイレの位置がわかるもの）があると良かった。（4件）
- ・資料に議員名簿があると良かった。
- ・議事堂内の壁にかかってある美術作品に、高校生の作品も加えてもらいたい。
- ・政策提言型なのに、議員提案条例が9件だけなのは少ない。
- ・予算特別委員会室へ行くエレベーターが遅い。
- ・Wi-Fiの設備があると良かった。
- ・寒かった。

令和6年度 生徒・学生、女性・若者と県議会議員との 意見交換会の実施状況について

I 総括

1 実施校等

生徒・学生と県議会議員との意見交換会は、平成27年度の試行を経て、28年度から開催している。令和6年度は、意向調査において希望があった学校と調整の上、5校で実施（学校開催4校、議事堂開催1校）し、正副議長、広報・広聴委員を中心に延べ24名の議員が意見交換会に出席した。

また、新たな取組みとして、女性や若者を中心に、県民の県議会への関心を喚起するとともに、参画（傍聴、投票、立候補）を促すことを目的に、青年会議所との意見交換会を開催し、副議長及び広報・広聴委員7名が出席した。

○生徒・学生と県議会議員との意見交換会

開催日	学校名	出席議員数	参加者数	開催場所
9月3日（火）	県立新庄南高等学校	5名	24名	学校（新庄市）
9月9日（月）	県立庄内農業高等学校	5名	22名	学校（鶴岡市）
11月18日（月）	日本大学山形高等学校	4名	11名	議事堂
11月29日（金）	県立米沢栄養大学・ 米沢女子短期大学	5名	25名	大学（米沢市）
1月30日（木）	大原学園山形校	5名	23名	学校（山形市）
計5校		24名	105名	

○女性・若者と県議会議員との意見交換会（初開催）

開催日	参加者	出席議員数	参加者数	開催場所
11月27日（水）	県内各青年会議所の役員等	8名	11名	議事堂

2-1 意見交換の概要（生徒・学生と県議会議員との意見交換会）

参加した生徒・学生等の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、各校の希望の開催方式により実施し、活発な意見が交わされた。また、県議会への理解を深めていただくため、一部の学校においては、山形県議会の概要等説明も合わせて行った。

【意見交換の項目】

（1）活動報告＋ワークショップ形式

① 県立米沢栄養大学・米沢女子短期大学

【活動報告】「米沢市映えcaféオープンプロジェクト」について

【全体テーマ】山形県の魅力向上に向けたアイデアを考えよう！

（2）ワークショップ形式

① 県立新庄南高等学校

【テーマ】

1班「空き家利用・廃校活用について」

2班「まつりの担い手不足や観光客について」

3班「地元を活気があふれる賑やかな町にしたい！」

4班「若者の回帰・定着について」

5班「山形の最低賃金 900円から～」

② 県立庄内農業高等学校

【全体テーマ】庄内のこれから

1班「農業」

2班「生活環境」

3班「学校教育」

③ 日本大学山形高等学校

【テーマ】

1班「山形市中心街の活性化」

2班「高校生と地域との連携に伴う防災力の向上」

3班「校則に関して」

※議事堂開催につき、終了後に議場見学を実施した。

(3) 質疑応答形式

① 大原学園山形校

【テーマ】

- ・ 県内の交通政策について
- ・ 若者の活躍、雇用機会の創出について
- ・ 災害対策について

2-2 意見交換の概要（女性・若者と県議会議員との意見交換会）

青年会議所の皆さんの発言の機会を確保するため、2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行い、若者の政治参画や県内定着に向けたアイデア等について活発な意見が交わされた。また、県議会への理解を深めていただくため、意見交換会終了後に議場見学も行った。

【意見交換の項目】

(1) ワークショップ形式

参加者：県内の青年会議所の役員等 11名

【テーマ】

- ① 若者にとって「魅力ある山形県」とは何か
- ② 若者の政治（県議会）への関心を高めるにはどのような取り組みが必要か
- ③ 若者が住み続けたいと思える山形県にするため、山形県議会・議員に期待することは何か

3-1 参加者アンケート結果の概要（生徒・学生と県議会議員との意見交換会）

（1）意見交換会に参加した感想

参加した生徒・学生等からは、議員の考えや県の取組状況等の話を直接聞いたり、意見や疑問点を伝えたりすることができたとして、好意的な意見が多く寄せられ、満足度が高いものであったことがうかがえる。課題としては、意見交換を深めるためには時間が短かったなどの意見があった。

【主な感想の内容】

① 議員との意見交換について

- ・ 普段できない貴重な機会だった。調べただけでは知ることができないお話をお聞きすることができ、うれしかった。身近な事例を挙げて意見交換することで、より県議会というものを身近に感じることもできた。
- ・ 自分が思いつかないことや、より深いところまで考えることができ、貴重な経験になった。
- ・ 議員の方々が生徒の意見をしっかり聞いて受け答えしてくださり、アイデアも聞いてもらい、とても親切に話し合いをしてもらえた。
- ・ 貴重な話し合いの場を設けてもらい、私が問題としている点の解決についてより詳しく多様な意見をお聞きし、地元のことについて今よりもっと自分事として考えていかなければならないと思った。
- ・ 初めて知った県の政策もあり、地域課題に対して深く考えることができた。
- ・ 自分が日々感じていることを県議会の皆さんに伝えられて良かった。
- ・ 最初は緊張して上手く喋ることが出来なかったが、議員の皆さんが気さくな方ばかりで打ち解けることができ、円滑な話し合いが出来た。
- ・ 県議会議員との意見交流はあまりない機会なので、新鮮ですごく楽しかった。議員の体験談なども聞くことができ、参考になった。
- ・ 今回貴重な経験をすることが出来て良かった。少し話し合いの時間が短いと感じたのでもう少し長めに話し合いの時間があるといいと感じた。
- ・ 政治が自分の進路に大きく関わっていることを知りとても参考になったので、高校生に関わりがある話題をテーマに話し合いの場があったらぜひ参加したい。
- ・ 質問に一つ一つ真摯に向き合ってくださり、今の県政の動きを含めた回答をいただきとても多くの学びを得ることができた。
- ・ 今後は何事も私事として考え、周りの人が抱える問題に向き合っていきたい。
- ・ 今まで知らなかった政治の話を知ることができただけでなく、私たちの身近な要望・意見なども伝えることができ、とても充実した時間になった。
- ・ 自分たちでは考えられなかった視点からの意見を、的確な資料と豊富な経験から指摘いただき、とても貴重な会にすることができた。もっと自分の住む山形

県を守るために必要なことを追求していきたい。

- ・議員の皆さんがフレンドリーに接していただき、安心して参加することができた。生徒会と県議会で切り離して考えていたが、県議会の方式など参考にできることが沢山あり、考え方や価値観が変わった。
- ・学校と議会ではスケールは異なるが、やっている活動に共通点を見ることが出来たのでとても楽しかった。
- ・想像していたよりも気楽に色んな意見を交換したり、話し合ったり出来て良かった。映えカフェさん達が作ってくれたお菓子もあり、楽しく美味しくとても良い雰囲気だった。参加して良かった。
- ・県議会議員の方がとても気さくで、話しやすい空気だった。自分が不満に思っていることや、発信したい魅力をみんなで話し合えるのは貴重な機会だった。堅い仕事をしているので堅い人たちなんだろうと思っていたが、今回でイメージが変わった。同じ目線でものを見て寄り添っていただき、その姿勢がありがたかった。

② 政治・選挙や県議会への関心について

- ・今回のように実際に県議会議員の方と話す機会が増えると良いと思った。
- ・自分の住んでいる地域など身近なことだと関心を向けやすいと思う。
- ・中学高校から今回のような県議会議員との交流があると、若者も政治に興味を持つと思う。
- ・今回のような機会を学校単位だけでなく市町村でも開催し、若者の意見をもっと聞いて欲しい。
- ・実際に議員の話を聞く機会があると質問もたくさんでき関心も高まると思う。
- ・SNSを利用した情報発信が若者の目にも留まりやすく、テレビやホームページよりは県議会に触れる機会が増えると思う。
- ・議員と直接関われる機会が増えると関心が持てると思う。
- ・テレビやラジオ、新聞を使うことで比較的簡単に情報を伝えることが出来ると思うが、若者は今まで主体となってきた情報媒体から離れつつあるため、SNSを有効的に活用し、バズるような発信をするべきだと思う。
- ・県議会ではどのような取り組みをしているのかを堅苦しくなく、フラットな状態で中高生などに発信して欲しい。
- ・議場の様子を実際に見学し、会議の様子などにすごく興味を持てたため、高校生が政治への関心を高めるための良い取り組みになるのではないかと思った。
- ・Instagramやtiktokなどの短い動画で政治の情報を発信すると若い人の目にとまりやすく、関心を持ってもらえるきっかけになるのではないかと感じた。
- ・政治に関する記事や情報を出すときに、もっと若者が親しみやすいデザインや

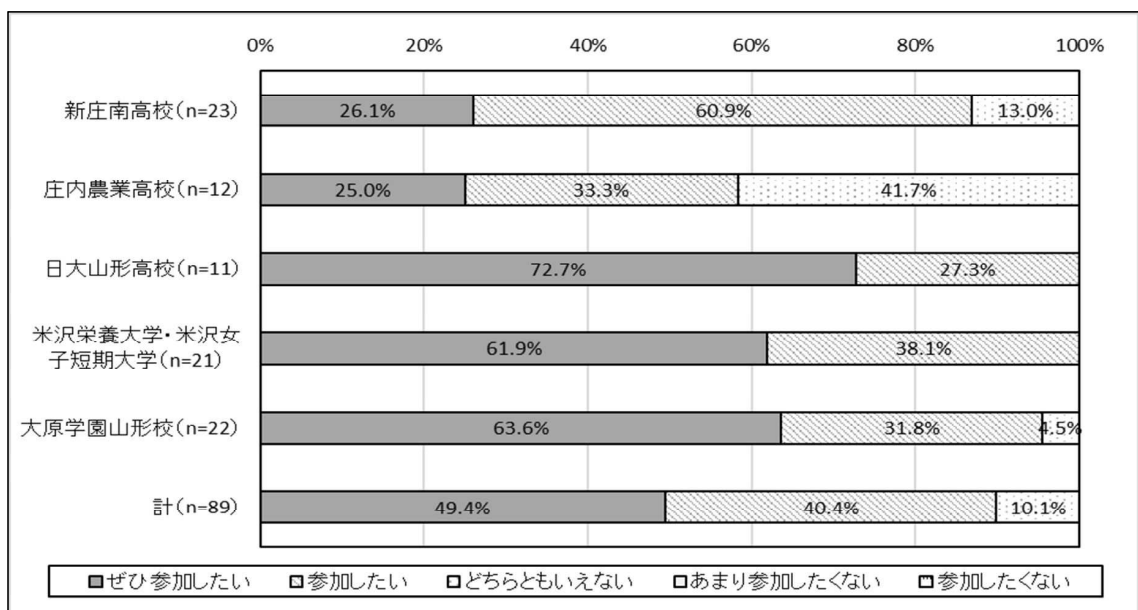
フォントを用いるといいと思う。

- ・今回のように、食事をとりながら山形県に詳しい方々と学生で意見交換したり、山形県についてのクイズをしてみたりすると、小学生から大学生まで楽しみながら学ぶことができると思う。
- ・会議の名前を変えると来る人が増えるかもしれないと思った。
- ・堅苦しくなく、今回のように一緒に同じ食べ物を食べながらお話出来ると話しやすい雰囲気になると思う。
- ・政治について議員の方が行っていることをあまり詳しく知らないなので、今日みたいな形で交流が出来たらいい。

(2) 今後の参加希望について

各校の回答を集計すると「ぜひ参加したい」と「参加したい」で89.8%を占め、全体として好意的に受け止められている。

(問) 同様の機会（実施は学校・教員）があったら参加を希望しますか。

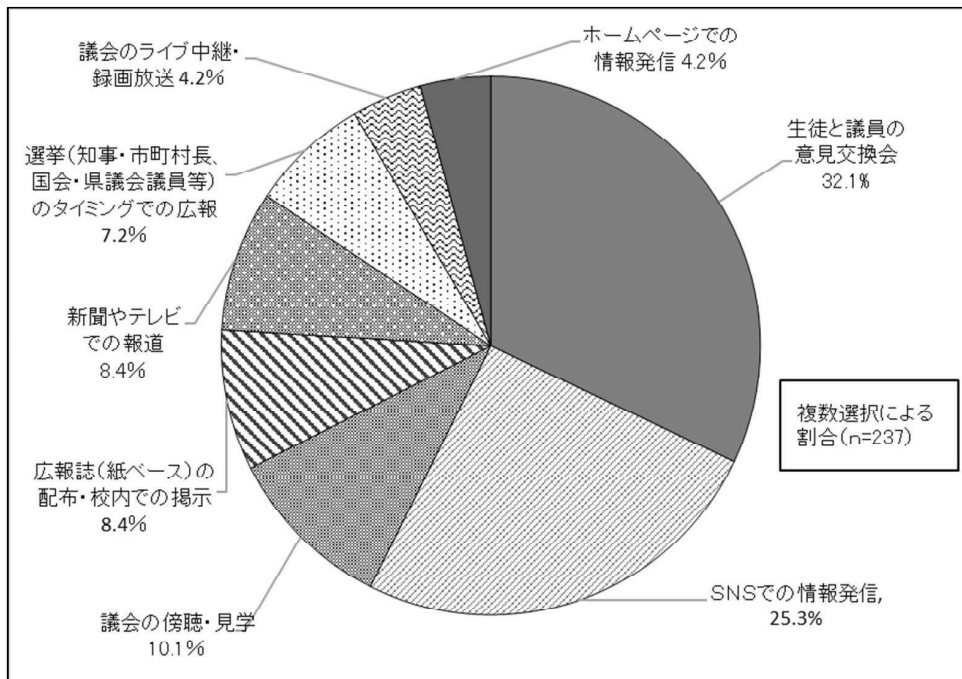


(3) 若者に対する効果的な広報について

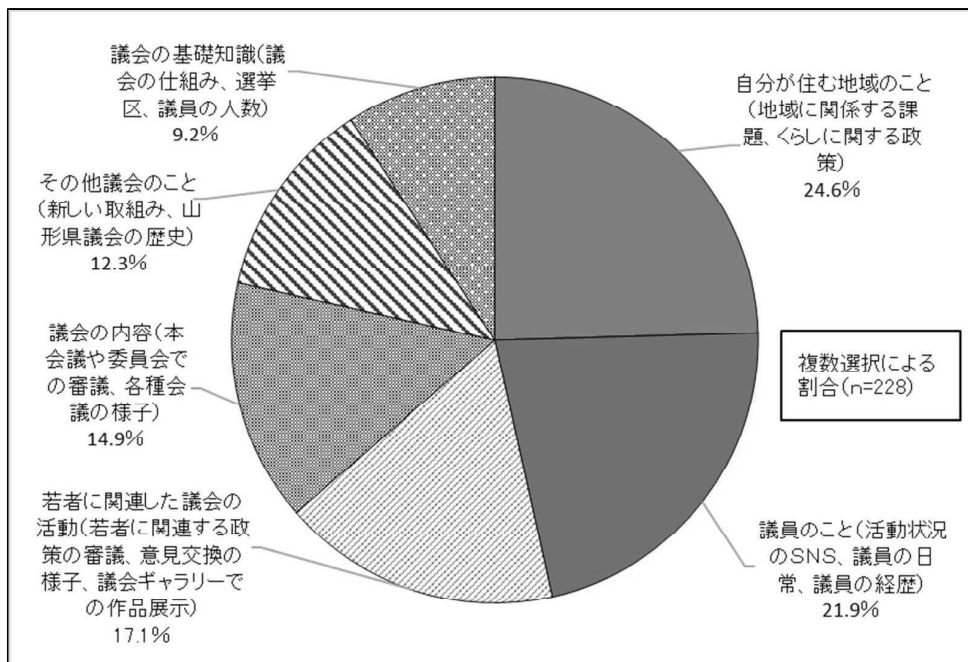
広報手段については、意見交換会の拡充を求める意見が最多で、次いで「SNSでの情報発信」で、この2項目で全体の約6割を占めた。

興味・関心を持ってもらえる内容については、「自分が住む地域のこと（地域に関する課題、暮らしに関する政策）」と「議員のこと（活動状況のSNS、議員の日常、議員の経歴）」がほぼ同数で、この2項目で全体の約5割を占めた。

(問) 若者に対して、どのような広報（周知・情報発信）が効果的だと思いますか。



(問) どのような内容だと若者に興味・関心を持ってもらえると思いますか。



3-2 参加者アンケート結果の概要（女性・若者と県議会議員との意見交換会）

（1）意見交換会に参加した感想（県内の青年会議所の役員等）

参加者からは、政治への関心度向上に関し、公開討論会の開催やコンビニや学校などに投票所を設ける案のほか、子どもの頃から議員が身近な存在であることなどの意見があった。

【主な感想の内容】

① 女性や若者の県議会への関心を喚起し、参画（傍聴、投票、立候補）を促すための取組みについて

- ・小さいころから時間をかけて政治にかかわらせていく（刷り込みする）ことが大事。
- ・若い人が参加しやすい公開討論会を開催してはどうか。
- ・若い人は堅い雰囲気敬遠するため、今回の意見交換会のようにフラットに気軽に話せる場があると良い。
- ・選挙割りの導入。
- ・投票所の堅い雰囲気を変える。
- ・投票所について、移動投票所や学校や子育て支援センターへの設置など積極的に取り入れるべき。
- ・議員の出前授業 ⇒ 他人が良いと思うことを言うのではなく、自分の意見を言えることが大事（他人の意見も大事にする雰囲気づくり）。
- ・泥臭さも大事で、常に議員が身近な存在であることが参画につながる。
- ・会議を行う場所など、いろいろ変えてみてもいいと思う。
- ・県民世論の高揚を図るために今まで以上の情報発信が有効。
- ・若者は政治で何かが変わると期待していないのが現実だと思うので、一番は政治で何かが変わると理解されること。
- ・取組みを促進するための取組みは2度手間とを感じる部分がある。

② 県議会議員との意見交換会に参加した感想（改善点等も含む）

- ・とても良い時間だった。
- ・これからの県議会の見方が変わり、見てみようと思った。
- ・堅い雰囲気の会なのかと思って参加したが、良い意味でゆるく楽しかった。県議会議員のイメージが変わった。
- ・初めて議場を見学したが、天童木工やオリエンタルカーペットなどが使われていてオール山形に感動した。

- ・テーマ3つに対して1つのテーマに要する時間が短かったので、テーマを絞るか時間を長めにとった方が良い。
- ・話しやすくとても良い会だった。
- ・もっとラフな服装と会場であればもっと身近に感じられると思う。
- ・参加して県議会を考える機会になった。応援したいと思える議員さんの活動に期待します。
- ・このような会を定期的で開催していただけたらとても良い。
- ・普段話せないことなど、意見交換出来て良かった。
- ・普段お話しすることのできない県議会議員と話すことができとても楽しい時間だった。
- ・議場見学やフラットな話ができる等、多くの発見があったので継続して開催してほしい。
- ・県議の方々が心から意見を聞こうとしていただいていることを感じた。
- ・若者に対してというのであればSNSをしっかりと理解し、県議会そして議員個人で活用することが大事。気を付けてほしいのは、ダサいSNS運用はむしろ逆効果ということ。センスもありながら、コンプライアンスに気を付けて発信してほしい。
- ・すごく重要で大切な機会であると感じた。
- ・U25くらいの年齢で、若者中心の若者議会などを作れたら、若者の中からリーダーが生まれ、注目や政治的関心も増えると思う。

II 個別の実施状況

1 新庄南高等学校

開催日時	令和6年9月3日（火）15時45分～16時45分
開催場所	山形県立新庄南高等学校（新庄市）
出席議員	矢吹栄修、石川渉、伊藤香織、石塚慶、石黒覚
参加者	生徒会執行部 24名
意見交換の概要	<p>①「空き家利用・廃校活用について」、②「まつりの担い手不足や観光客について」、③「地元を活気があふれる賑やかな町にしたい!」、④「若者の回帰・定着について」、⑤「山形の最低賃金900円から」の5班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・県内には空き家が沢山あるが、最上町ではスケートパークにして若者を集めたりしている。空き家活用のアイデアとして、認定こども園や保護猫の活動の場として使ってみてはどうか。・まつりの担い手不足対策として、外国人に担い手になってもらえれば山形のまつりの魅力を世界に広めることができるのではないか。・シャッター街にペイントすることで地域が明るくなるのではないか。・若者の回帰・定着に向けては、雪を魅力に変える考え方や若者の意思に寄り添ったインフラ改善が効果的ではないか。・若者の定着に向けて賃金を上げる必要がある。・新庄新高校（仮称）開校に当たり校舎を新しくしてほしい。

2 庄内農業高等学校

開催日時	令和6年9月9日（月）15時30分～17時00分
開催場所	山形県立庄内農業高等学校（鶴岡市）
出席議員	森田廣、江口暢子、阿部ひとみ、高橋弓嗣、佐藤文一
参加者	生徒会役員等 22名
意見交換の概要	<p>「庄内のこれから」を全体テーマとして、①農業、②生活環境、③学校教育の3班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、生徒が各班で取りまとめた内容を発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・庄農うどんをPRするため、庄内産小麦を使用していることなどをSNSで発信することが有効ではないか。・子育てで困っている人に向けて、子育て支援センターなどが開放されていることが分かった。・活気ある商店街をつくるため、庄内地域でも山形の魅力を発信するイベントを開催してはどうか。

3 日本大学山形高等学校

開催日時	令和6年11月18日(月)14時00分～15時30分
開催場所	議会棟
出席議員	森田廣、齋藤俊一郎、遠藤寛明、森谷仙一郎
参加者	生徒11名
意見交換の概要	<p>①山形市中心街の活性化、②高校生と地域との連携に伴う防災力の向上、③校則に関する3班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、生徒が各班で取りまとめた内容を発表したほか、終了後に議場を見学した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県は子育て施設が少ないと思っていたが、他県と比較して多い方だということを知り、知見が広がった。 ・学校の校則というテーマのもと、学校のルールを改めるには、理由、目的、経緯をしっかりとすることが大事だということを学んだ。 ・学校と議会ではスケールが違うが、やっている活動に共通点があることを知り、考え方や価値観が変わった。 ・高校生消防団をテーマに挙げたが、県内で既に大学生による防災活動が行われていることを知り、みんなで活動をアピールしていく必要があると思った。 ・女性が都会へ出ていく現状を知ることができた。また、山形県では「A iナビやまがた」や出会いの場のセッティングを行っているということで、これから私たちにもできることを探していきたい。

4 米沢栄養大学・米沢女子短期大学

開催日時	令和6年11月29日（金）16時30分～18時00分
開催場所	山形県立米沢栄養大学・米沢女子短期大学（米沢市）
出席議員	矢吹栄修、橋本彩子、相田日出夫、五十嵐智洋、吉村和武
参加者	学生25名
意見交換の概要	<p>大学の学生有志で取り組んでいる「米沢市映えcaféオープンプロジェクト」の取組みについて活動報告が行われた後に、「山形県の魅力向上に向けたアイデアを考えよう！」をテーマとして、5班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、各班で取りまとめた内容を学生が発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内は車がないと行けない場所が多く、学生は移動手段が限られることから、公共交通機関の利便性を向上してほしい。 ・路線バスが夜まで走っておらず、アルバイトの帰りなどが大変なので、公共交通機関の利便性を上げてはどうか。 ・大学周辺の街灯を増やすなど、若い女性が安心して暮らせる治安確保が必要。 ・米沢市には多くのイベントがあり、学生が活動しやすい点が魅力だと思う。 ・県外出身者から見ると雪は魅力があるので、もっと活用方法を考えるべき。 ・芋煮など地元の食文化を大切にすることが大事。 ・美味しい食べ物（ラーメン、芋煮、果物など）や歴史など、山形の魅力をSNSで発信すると、他県からの観光客も増えると思う。 ・若い人はSNSで情報収集するため、山形の魅力をSNSで発信すべき。 ・山形の魅力を伝えるツアーを組んだり地価の安さや若い女性に活躍のチャンスがある地域ということを伝えてはどうか。 ・米紙ニューヨーク・タイムズに魅力的な観光地として取り上げられることを目指してはどうか。 ・県内各地にあるコミュニティセンターを上手に活用すると、学生からお年寄りまで幅広い年齢層の交流ができると思う。

5 大原学園山形校

開催日時	令和7年1月30日（木）14時40分～16時15分
開催場所	大原学園山形校（山形市）
出席議員	矢吹栄修、阿部恭平、佐藤正胤、渋間佳寿美、小松伸也
参加者	生徒23名
意見交換の概要	<p>県議会の概要説明を行った後、質疑応答形式で、①県内の交通政策、②若者の活躍、雇用機会の創出、③災害対策の各テーマについての意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形新幹線の高規格化により、首都圏へのアクセスが現在よりも格段に良くなると考える。 ・山形県は世帯当たり自動車保有台数が日本一であるとともに、ガソリン代が全国でもかなり高い現状である。高速道路や国道・県道等の整備を進めることで輸送コストを下げる事が可能と考える。 ・今後、高齢化に伴い買い物弱者がさらに発生するものと考えられ、中山間地の公共交通機関などの対応を考えるべきである。 ・寒河江駅等の時刻表を見るとバスの最終便が早いと感じる。それを解消することでさらなる利便性の向上が期待できると考える。 ・現在日本国内でオーバーツーリズムが問題視されており、尾花沢市の銀山温泉などでも課題として挙げられている。観光客を増やすだけでなく、住民など地域に対する影響も大きいため早急な対応が必要になると考える。 ・例えば天童市のイオンモール天童などのように、山形県は遊ぶ場所や買い物できる場所が限られていると感じている。若者が楽しめる環境づくりやそれに伴うまちの発展について考えるべきである。 ・若者の特徴として、地方では雇用の機会が少ないなどの理由で都会に転出していると考える。若者が山形に残るための雇用機会の拡大や環境づくりについて考えるべきである。 ・米沢駅周辺を見ると若者が集い楽しめる場所が少ないと感じる。米沢駅周辺の発展、また、米沢市の人口減少に歯止めを

	<p>かけるための対策について考えるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none">・最上地方は他の地方と比べても人口減少が激しい傾向にあるが、人口減少に歯止めをかけるために対策が必要であると考ええる。・豪雨災害に関して、戸沢村では豪雨災害などの影響で集落の集団移転の動きもある。今後もこのような事態が起きた際に対策を講じていく必要があると考える。
--	--

6 青年会議所

開催日時	令和6年11月27日（水）14時30分～16時00分
開催場所	議会棟
出席議員	矢吹栄修、石川渉、橋本彩子、阿部恭平、伊藤香織、 相田日出夫、阿部ひとみ、遠藤寛明
参加者	県内各青年会議所の役員等 11名
意見交換の概要	<p>「若者とこれからの山形県」を全体テーマに、①若者にとって「魅力ある山形県」とは何か、②若者の政治（県議会）への関心を高めるにはどのような取り組みが必要か、③若者が住み続けたいと思える山形県にするため、山形県議会・議員に期待することは何かに関して、2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、終了後に議場を見学した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <p>①若者にとって「魅力ある山形県」とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県は、自然や歴史、文化など魅力がありすぎて具体的に出すのが難しいところがあるのかもしれない。 ・山形の魅力を身近に感じてもらえるよう、PRの強化や、実際に経験してもらうことが大事。 ・稼げることが必須である。また、山形県を住みやすいと感じられる価値観をどのように醸成していくかが大事。 ・歴史などの個性ある街（例えば熊本県のアートポリス構想など、芸術性のある建築）も魅力がある。 ・山形の魅力は外に出て初めて気づくこともある。地元にいるとその地域の良さ（宝物）に気づきにくいので、地域の魅力を再認識し、しっかりと情報発信することが必要。 <p>②若者の政治（県議会）への関心を高めるにはどのような取り組みが必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や議員がどんな活動をしているのか分かりにくいので、活動が見える化してほしい。 ・もっとメディアで放送してもらえると理解が進むと思う。 ・さらに投票率を上げるためには、授業の中で選挙に参加させたり、学校やコンビニなど身近な所に投票所を設置するのも良いと思う。また、議員カードなどゲーム感覚で親しみやすくする方法もあるのではないかな。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の意見交換会のように、フラットに気楽に話せる場があると良い。 ・小さいころから時間をかけて政治に関わらせていく（刷り込みする）ことが大事。 ・若い人が参加しやすい公開討論会や事前に関心事のアンケートを取った上での公開討論を開催してはどうか。 ・若者は堅い雰囲気敬遠するため、TikTokなど短時間で印象に残る情報発信が効果的と思う。 <p>③若者が住みたいと思える山形県にするため、山形県議会・議員に期待することは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員として活動の幅を広げ、もっと県民と関わるようにしてほしい。 ・会議の場で遠慮せずに発言できる環境を作してほしい。 ・山形県として最重要課題を設定・行動し、最終的にSNSでカッコ良く、おもしろく、おしゃれに発信できるとより伝わると思う。 ・山形で未永く子育てしたいと思えるまちを作してほしい。 ・フリースクールなど若者にとって集える新しい場所を増やしてほしい。 ・Uターン、Iターンで山形に戻ってからも、母親が働けるようにしてほしい。 ・子どもの頃から身近な存在でいることが政治や地域づくりにつながっていくと思うので、議員は「身近なおじちゃん、おばちゃん」であってほしい。 ・政治に関心を持ったきっかけとして、公開討論会への参加やお世話になった方が政治に関わり始めたことなどがある。
--	--